

東義 光星をコールド

秋季
県高校野球

4回集中打6点、逆転

▽1回戦（はるか夢）
八学光星 201 0000000
0000 603 01x103
東奥義塾
（八回コールド）
（ハ）奈良、遠藤、横山、森
一、森下、中澤
（東）山内、坪田、齋藤、原
田
▽三塁打 相馬（東）▽二塁打 佐藤宏、原田、山谷、小田桐、北川（東）
▽暴投 奈良（ハ）

【評】東奥義塾は四回、打者11人で一挙6点を挙げ逆転。その後も加点しコールド勝ちを収めた。0-3で迎えた四回、中軸の連続適時打で1点差に追い付き、坪田の適時打で同点に押し出し、などもあつて試合の流れを引き寄せた。投手陣は3投手の継投で逃げ切った。

八学光星は、初回先制点を奪ったものの、四回以降追加点を奪えなかった。

練習不足、主力ら骨折 4季連続甲子園絶たれる



8回コールド負けを喫し、試合後のあいさつに向かう八学光星ライン

「つかまれて投げ飛ばされたような感じ」。八学光星の仲井監督は、苦笑を交えながら試合を振り返った。

新チームは練習試合が少なかつたことや主力選手らの骨折などが響き、「経験や力が不足していた」（仲井監督）。エースナンバー1を背負う横山大は、「球の速さが出ず、制球で勝負しようとしたが、カウントを取りに行ったストレートが浮いてしまった」と話し、チームに流れを引き寄せられなかったことを悔やんだ。

仲井監督は、横山大をはじめ新チームのメンバーについて「真面目な子たちだが、気持ちで引いていた部分があったのではないかと。4季連続での甲子園大会出場の道は、ここで事実上絶たれた。横山大は、これからの冬が大事になる。普段の練習を徹底したい」と巻き返しを誓った。（自時壮大）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです